

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	任意事業（高齢者実態把握事業）			
担当課係名	包括支援センター	課	係	作成者 浅利和磨
総合計画での位置づけ	施策の大綱	すべての生命を慈しむ健康福祉のまち		
	基本計画	高齢者福祉と介護保険事業の充実		
	主要施策	高齢者介護予防の推進および介護サービスの確保		
予 算 費 目	一般	会計	3 款 民生費	1 項 社会福祉費 8 目 包括支援センター費
事業期間	平成 23 年度 ~ 平成 23 年度		新規/継続の区分	新規
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス	<input type="checkbox"/> 公共事業	<input type="checkbox"/> 施設維持管理	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理
根拠法令等	介護保険法			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務		
運営方法	<input type="checkbox"/> 直 営	<input checked="" type="checkbox"/> 直営（一部民間委託）	<input type="checkbox"/> 民間委託（全部）	<input type="checkbox"/> 補 助

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	仙北市内に居住する65歳以上の高齢者
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	仙北市内に居住する高齢者の心身の状況や生活実態、必要な支援を幅広く把握し、介護不安、虐待、孤独死等高齢者に関する様々な問題を早期に発見し、地域における保健・医療・福祉等関係機関が連携することで問題発生を防止する。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	包括支援センター職員および業者委託（仙北市社会福祉協議会）により高齢者宅を戸別訪問し、心身および生活実態について調査を行い、潜在化している高齢者の様々な問題を発見し問題解決に向け支援する。

【事務事業の推移】

効果	活動指標	項目	単位	23年度実績	
				目標	実績
効果	訪問調査数	目標	件	500	
		実績	件	539	
		達成度	%	107.8%	
	継続相談数	目標	件	25	
		実績	件	27	
		達成度	%	108.0%	
投下コスト	事業費（人件費を除く）(A)	総事業費		23年度決算額(千円)	262
		人件費(B)	—	3,551	
	職員数	職員数	—	0.42	
		職員平均人件費	—	8,479	
	(A)+(B) 投下コスト	—	3,813		
	財源内訳	国庫支出金		0	
		県支出金		0	
		地方債		0	
		その他		0	
	一般財源		3,813		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	7,074		
	市民1人当たりのコスト(円)	—	128		

【事務事業の今までの成果】

職員等が直接訪問することにより、表情・言動・容姿・生活環境等から、地域で生活していくうえでの不安や実際に困っていること（生計維持困難、介護問題、虐待など）が発見でき、不安の解消や問題解決につながった。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	高齢者を取り巻く諸問題が多種多様化しており、医療・保健・福祉等関係機関の地域ケア体制強化が進められている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	困った時にどこへ相談したらよいのか、また、相談することへの抵抗感や敷居の高さがあるため、訪問してもらえれば話し易く安心。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	高齢化率が増加を続ける中で、不安や問題を抱えていても相談場所に向くことが困難だったり、連絡方法がわからなかったり、また、連絡できてうまく伝えることができなかつたりするケースが増加している。よって訪問等（リーチアウト）が有用であり、事業の継続が必要であると判断する。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	高齢化が急速に進展する中、戸別訪問により不安な問題を解決し、安定した生活を支援することは必要であると考えられます。

